

## 【部会・分科会活動報告】 2016年7,8月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MALDI 分科会：NITE との協力体制、MALDI メーカーとのデータベース拡充について進捗確認を実施</li> <li>・ チルド食品勉強会：チルドにおいて危害となる菌の論文の読み合わせを実施</li> <li>・ NGS プロジェクト：発足経緯と今後の方針について説明。 ILSI Europe 主催の NGS 会議 (9/9、ベルギー) に出席予定</li> </ul> <p>2. 部会全体会議・勉強会</p> <p>8月26日(金)13:00-17:00 サントリーWRS (京都)</p> <p>部会全体会議：32名、勉強会：44名が参加</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各分科会からの活動報告</li> <li>2) その他報告 ISO-TC34-SC9 (2017) からの協力依頼</li> <li>3) 勉強会 講師：大阪府立大学 土戸先生 演題名：食品殺菌における細菌芽胞と損傷菌の問題</li> </ol> <p>3. 次回部会予定</p> <p>11月末頃に部会全体会議と勉強会を予定</p>
	食品リスク研究部会	特になし
	香料研究部会	
バ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー 研 究 会	研究会全体	<p>全体会議を7月13日に開催</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERA プロジェクト調査報告第28号勉強会 (ア) ERA プロジェクト調査報告第27号 (MAY2016) 6月発刊 (イ) ERA プロジェクト調査報告第28号 (SEP2016) 9月発刊 予定</li> <li>2. GM 食品添加物：問題点の理解と今後の進め方について討議。 勉強会の開催やパブコメの際の意見提出などが話し合われた。 今後は事態の推移を見ながら GM 食品添加物のグループが提案を出すことになった。</li> <li>3. 今後の勉強会：以下が提案された。 (ア) 「高度精製添加物の自主判断基準の考え方」、10月ごろ。 (イ) 5月の ERA ワークショップのフォローアップ勉強会、10-11月開催。 (ウ) 林先生の ILSI CERA の報告 (次回のバイオ研究会の際)。 (エ) アレルギー誘発性に関するワークショップは来年度。</li> <li>4. NBT ワークショップ：今後も検討を続ける。</li> <li>5. ERA 報告書の今後：幾つかのオプションが出、今後検討することとなった。</li> <li>6. 会計報告：現状を把握した。 次回は9月16日。終了後、林先生の勉強会。</li> </ol>
	栄養研究部会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2回部会会議 (7月1日 15:00 - 17:00、於 ILSI 会議室、15名)、議題：①時間栄養学研究の現状解説 (三井 WG リーダー)、②「睡眠の質と食生活」最新情報概説 (桑田先生)、③「脳機能を支える神経-血管連関 (仮題)」の勉強計画について、④「健康な食事」分科会への対応について。</li> <li>2. WG 勉強会開催 (8月24日 15:30 - 17:10、於 ILSI 会議室、24名)。演題名：「脳機能を支える神経-血管連関」、講師：西島壮准教授 (首都大学東京 人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域 スポーツ神経科学研究室)。</li> </ol>

	GR プロジェクト	第3回多施設試験を10施設で実施（8月～）
	茶類研究部会・茶情報分科会	<p>7月5日、第41回茶情報分科会を開催。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 茶類の有効性・安全性情報の発信：投稿論文がオープンアクセスとなった。</li> <li>2. 茶成分データベース：茶試料の保存法および未分析試料の扱いについて決定した。得られたデータは部会内で共有する。</li> <li>3. 茶類研究部会新規テーマ：紅茶の成分研究、テアフラビン等有効成分に関する研究を、情報収集、勉強会を中心に進める。改めてメンバーを募集する。</li> </ol>
食品機能性研究会		第III期寄付講座（2013年12月開始、5年間）研究進行中。
	寄付講座「機能性食品ゲノミクス」	9/14に公開シンポジウム開催予定。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>7/11 世田谷区主催介護予防教室（講師：木村美佳、世田谷区上祖師谷グループホームかたらい）</p> <p>7/20-21 「テイクテンインストラクター養成講習」（講師：木村美佳、ILSI事務所）</p> <p>7/2 「すみだテイクテン自主グループサポート」（墨田1会場）</p> <p>8/1-3 吉賀町社会福祉協議会主催「テイクテン介護予防リーダー養成講座」（講師：木村美佳、島根県吉賀町）</p> <p>8/22-24 吉賀町社会福祉協議会主催「テイクテン介護予防リーダー養成講座」（講師：木村美佳、島根県吉賀町）</p> <p>8/25 「すみだテイクテン自主グループサポート」（墨田1会場）</p>
	Project SWAN (Safe Water and Nutrition)	<p>7月21-30日：「ベトナム農村地域における母親の離乳食作り啓発支援事業 (AIN)」におけるベースライン調査結果報告 (ベトナム)</p> <p>7-8月：地域ヘルスワーカーによる料理教室、紙芝居式教材を用いた栄養・食品衛生教育、栄養不良児の母親を対象とした栄養カウンセリング及び拡声器による情報提供 (ターイグエン省・バクザン省、ベトナム)</p> <p>8月18, 19, 22日：地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教材を用いた情報提供方法に関する研修 (ハナム省、ベトナム)</p> <p>8月22, 23, 24, 25, 29, 30日：地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教材を用いた情報提供方法に関する研修 (ニンビン省、ベトナム)</p>
	Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)	特になし
	CHP 全体	特になし
国際協力委員会		<p><b>2016年第4回国際協力委員会</b></p> <p>8月2日(火) 15:00-16:00. ILSI Japan 会議室 13名出席</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アジア諸国の栄養表示、健康強調表示等に関するデータの更新について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジア各支部に依頼し、栄養表示、健康強調表示に関するデータの更新を行った</li> <li>・ 7/15に台北で、台湾、韓国、東南アジア支部と共同プロジェクトについて打合せを行った。栄養表示 (nutrition labeling) と健康強調表示 (health claim) を分けて作表する。</li> <li>・ 栄養表示、サプリメントについては各国並べて一覧表に、健康</li> </ul> </li> </ol>

	<p>強調表示は国別に作表。ASEAN の空欄は ILSI SEA に依頼することを検討。</p> <p>2) 第 8 回 BeSeTo 会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8/30-31 北京で開催。</li> <li>・ Satellite Workshop “Regulations on Food Contact Materials”：日本食品包装協会の住本充弘氏が講演 (8/30 AM)</li> <li>・ BeSeTo 会議 (8/30 PM 及び 8/31) での日本からの発表テーマ： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品機能性成分の安全性評価：池田氏 (花王)</li> <li>・ 香料の安全性評価方法の変更：関谷氏 (高砂香料)</li> <li>・ 食品添加物指定の近況及び公定書第 9 版：小野氏 (味の素)</li> <li>・ 原料原産地表示の動向：浜野氏</li> <li>・ 農水省プロジェクトの状況、栄養表示/健康強調表示：浜野氏 (一部小野氏 (味の素))</li> </ul> </li> <li>・ その他、日本から宇津事務局長、木村氏 (味の素常務) が参加。</li> </ul>
情報委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会開催 2 回 (7, 8 月)</li> <li>2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常業務としての更新 (随時)</li> </ul> </li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24 巻 4 号 (通巻 93 号)：8/10 発刊</li> <li>・ 25 巻 1 号 (通巻 94 号)：翻訳、監修、編集 (11/10 発刊予定)</li> <li>・ 8/29 編集委員会 (通巻 95 号採択論文、翻訳者候補決定)</li> </ul> </li> </ol>
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「イルシー」誌 127 号、原稿査読・編集</li> <li>・ 「イルシー」誌 128 号、原稿査読・編集</li> </ul>

## 【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 5 回理事会が平成 28 年 7 月 28 日 (木) 15 時より開催された。</p> <p>報告／討議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 東大寄付講座発展型創設に向けて進捗状況 <p>新たな寄付講座は、安全性評価など大きなテーマを対象とした意向を東大側に伝え、ILSI Japan 内部の体制と担当者を決定した。具体化に向け、タスクフォースを組織し、年内にテーマ案を提示し、来年にはシンポジウムを開催する企画。テーマについて意見交換がなされた。</p> </li> <li>2) 健康な食事研究会 (仮) 設立に向けての報告 <p>存在感を増している外食と中食の改善は食生活の改善につながるため、その実態の解明をコアテーマのひとつとし、外食・中食企業に参加してもらうために魅力的なシンポジウムを企画する必要がある、そのために ILSI Japan 内部でタスクフォースを結成、来年 2 月開催を企画。高齢者向けの新たなサービスの提案のほうがいとの意見が出た。</p> </li> <li>3) 「日本くすりと食品機能フォーラム」の概要と進捗 <p>ILSI Japan 会員企業が、自社の機能性食品について薬剤師へ説明し、食品の機能に関する知識を持ってもらうことを目的としており、理事会での認識とコミットが必要と考え今回説明に至った。内容については特に意見なく、今後の進め方、他の大学への拡大の可否、栄養の勉強の追加検討など意見が出され、これらを考慮して今後進めることで合意された。</p> </li> <li>4) 食品微生物部会 New Generation Sequencing 分科会設立 <p>ILSI Europe 支部からの提案を受け、Expert team に参加することを決め、具体的活動として New Generation Sequencing の</p> </li> </ol>
-----	--

	<p>食品安全への活用ガイダンスのまとめ、アドバイザーの指名、そのため ILSI Japan 内部に分科会を設立する提案がされ、承認された。</p> <p>5) 定款変更 (役員任期条項) について  一. 現状のまま定款変更をしない; 役員任期は 2 月 25 日から翌々年の 2 月 24 日までの 2 年間、二. 役員を総会で選任するよう定款を変更する; 役員任期は総会から総会の 2 年間以内、但し、総会のタイミングで延長の場合ありの 2 提案をした結果、現状で問題ないとの意見で定款変更しないことが合意された。</p> <p>6) 2016 年度損益見込み  連結ベース 6 月末時点で、1.1 百万円の赤字の予定。原因は会費の減少、農水省食品規格等調査事業終了に伴う、受託事業で負担させていた人件費・旅費の追加による。改善として新規プロジェクト等で新たな会員を増やす、活動を魅力的にして新たな FUND を得るなど、収入増加策を講じて新規会員を増やす方針を進めたい旨を報告。</p> <p>7) ILSI 本部関連  WHO との関係における進捗について、共同事業は行わないという方針に変わりはないが、8/8 の理事会において、WHO をいかに継続的にサポートするか、ILSI が公益のために活動する科学的な組織であることをより強調するためのガバナンス構造改善の議論をする予定。今後も ILSI 本部の動きを静観することを合意した。他に ILSI Mexico の復活と ILSI Middle East の設立を報告。</p> <p>8) その他  <u>CHP グローバル化検討進捗の報告</u>  第一弾の Feasibility study をアフリカ対象にて開始。主体は Research Foundation で、8 月中に予備調査の結果が報告され、次に日本 CHP と共同で、8 ケ国(サハラ以南)で Feasibility study を開始する計画。来年 1 月の ILSI 本部総会で承認をもらうべく、組織、運営、資金等の提案を今後準備する。</p> <p><u>TAKE10 の商標使用について</u>  TAKE10 の商標は ILSI-RF が維持し、各支部にはフリーライセンスとするが、使用した場合は報告義務があることが報告された。</p> <p><u>2017 年度理事会開催日程</u>  理事会出席の日程確保を容易にするため、来年の開催日を今から設定しておくことを提案; 2/7、4/21、7/25、10/27 の 4 日間。</p>
事務局	